

- 夏期高温な気象条件に適応した新品種の育成と連作障害対策が課題。
- 平成12年に「おかやまオリジナルリンドウ」の苗供給体制が整備され、普及指導センターが中心となり栽培啓発。
- 令和元年から、早期出荷が可能な極早生品種「岡山RND4号（登録出願中）」の現地適応性の検討や収穫本数増加のための実証を開始。
- 革新支援センターが中心となり、研究所や行政等と連携した現地実証による**新品種の栽培技術の確立**と**栽培面積の拡大**を図る。

## 具体的な成果

## 普及指導員の活動

1. **新品種栽培技術の確立と普及**

- 実証ほを活用した現地検討会を開催
- 栽培啓発資料を作成
- 現地講習会の開催による技術普及（オリジナルリンドウ面積 R2:1.4ha）
- 岡山RND4号（登録出願中）の現地適応性検討（R元～）

2. **連作障害対策技術の確立**

- 樹皮を活用した栽培の普及（コンテナ栽培など粉碎樹皮培地隔離栽培、栽培面積R2: 1.2a）



粉碎樹皮培地のコンテナに定植した「RND4号」

3. **販促活動の強化**

- 生産者、関係団体が主体の販促活動
- 市場からは需要期向け品種として評価（販売額 R元：12百万円）

## 平成26年度

- 普及指導センター、革新支援センター、研究所等で「おかやまオリジナルリンドウ技術支援チーム」設立
- オリジナルリンドウ栽培技術の検討および栽培啓発資料作成

## 平成26年度～

- 新品種の安定生産技術の確立と普及
  - ・実証ほや展示ほの設置
  - ・現地検討会・研究会の開催
- 粉碎樹皮培地を使用したコンテナ栽培技術など連作障害対策技術の確立と普及
  - ・実証ほの設置、技術マニュアルの作成

## 平成26～30年度

- 新品種「おかやま夢りんどう」の販売促進活動支援

## 令和元年度～

- 極早生品種「岡山RND4号」（登録出願中）の現地適応性を検討

## 普及指導員だからできたこと

- ・普及指導員が**現地密着で活動**していることで**現地のニーズをくみ取ることができた。**
- ・ニーズを革新支援専門員、農業研究所と共有することで、主産県より温暖な**当県に**適した「**早生2号**」や**早期出荷に適した「RND4号**」を育成・普及させ、**連作可能な「コンテナ栽培」**技術を確立できた。

## おかやまオリジナルリンドウの普及

活動期間：平成24年度～（継続中）

### 1. 取組の背景

岡山県のりんどうは、県北部を中心に昭和40年代から生産が行われており、西日本では最大規模の産地であるが、夏期高温な気象条件に適応した品種が少ないことや連作障害対策が課題となっていた。

岡山県の気象に適した品種育成に取り組み、平成23年に農業研究所が「早生2号」と「中生」の2品種を育成し、普及に移した。さらに、令和元年から新しい極早生品種「岡山RND4号」（登録出願中）が実用化され、現地適応性の検討や栽培実証を行うなど、オリジナルリンドウの普及に取り組んでおり、各品種には「おかやま夢りんどう」の統一した愛称を付け、販促に活用している。

また、りんどうの連作障害対策として、桧や杉の粉碎樹皮を培地とする「コンテナ栽培」の実用化を図った。

### 2. 活動内容（詳細）

平成26年度に普及指導センター、革新支援センター、農業研究所等で「おかやまオリジナルリンドウ技術支援チーム」を立ち上げ、県内の生産者で構成する「りんどう研究会」等を対象に、各オリジナルリンドウの安定生産技術の現地講習を行うとともに、生産者間の情報交換の場を設けた。さらに、品種の特性や、導入した生産者の栽培事例を記載した「おかやま夢りんどう早生2号—作ってみませんか」を作成し、栽培を推進した。

りんどうの安定生産技術対策では、高畝栽培や粉碎樹皮の土壌混和、粉碎樹皮を培地とした「コンテナ栽培」について実証を行い、慣行栽培と同等の切り花が得られることを確認した。「コンテナ栽培」は、自動かん水設備が必要なことなど慣行栽培に比べて経費を要するが、管理しやすいほ場で連作が可能なことから、生産者の高い関心を集めた。

販売対策では、生産者と市場関係者や生花店の意見交換会を年数回実施しており、消費者ニーズの把握に加え、オリジナルリンドウのPRに努めている。

また、令和元年から、「岡山RND4号」の現地適応性の検討や収穫本数増加のための栽培実証等に取り組んでいる。

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### （1）新品種の普及

「岡山RND4号」を含めたオリジナルリンドウの栽培面積は令和元年には1.4haに拡大した。特に、「早生2号」は強健で8月の需要期に出荷できる品種ということが生産者に高く評価され、この時期の主力品種として定着している。

(2) 連作障害対策技術の確立

「コンテナ栽培」など粉碎樹皮を培地とした隔離栽培法は、令和2年には1.2haまで拡大している。

(3) 販売促進活動の強化

生産者と市場関係者の情報交換会を重ねることで、消費者ニーズを意識したりんどう栽培に取り組んでいる。「岡山RND4号」を含めたオリジナルリンドウの販売額は、令和元年には約12百万円となっている。特に「早生2号」は、市場から需要期向け品種として評価されている。

#### 4. 農家等からの評価・コメント（新見市T氏）

「おかやま夢りんどう早生2号」は、十分な草丈が確保でき、株養成に気を配る必要がない。強健で、切り花本数も多く生産性は高く、需要期に出荷できるのも良い。

#### 5. 普及指導員のコメント

（美作広域農業普及指導センター 総括副参事 粒生直義）

「おかやま夢りんどう早生2号」は草勢が強いため欠株が少なく、生産性が高い。需要期の出荷率が高いのも利点である。花段数が多いが、需要期向け品種はあまり花段数の多さが評価されず、頂花の開花がやや遅れる点が惜しまれる。栽培技術で解決できないか検討が必要である。

極早生品種である「岡山RND4号」には、大いに期待している。

#### 6. 現状・今後の展開等

県オリジナルリンドウは、農業研究所が引き続き新品種育成に取り組んでおり、今後も新品種の実用化が見込まれている。

極早生の新品種である「岡山RND4号」は、令和元年から2戸が現地適応実証栽培を始めた。令和2年度から本格的に普及を始め、栽培戸数も増加し、令和3年度から本格出荷を迎えることから市場、実需者に周知を図っていく。